

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

B

13

14

15

17

18

19

美蘭書秘傳

78
1646

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

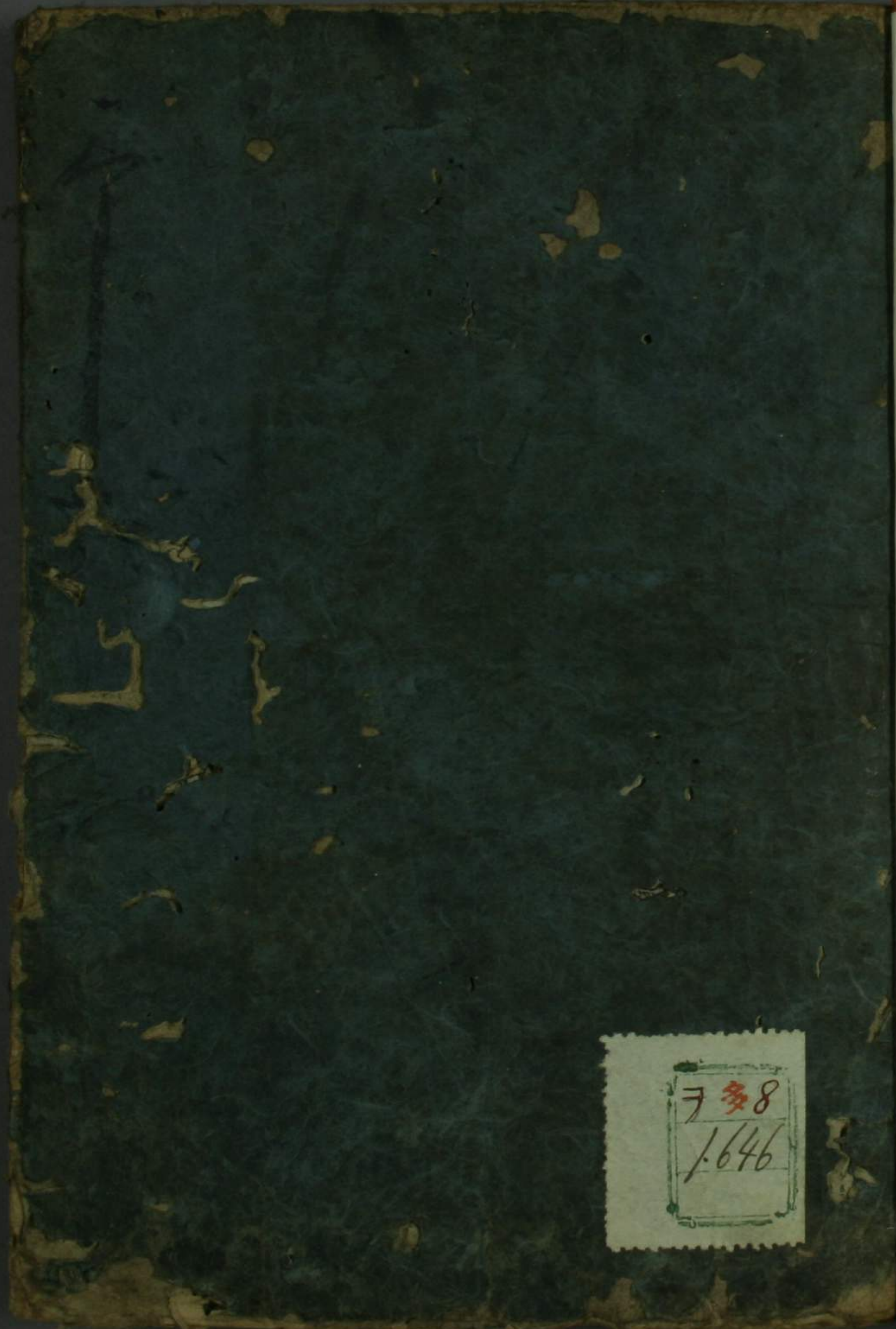
8

9

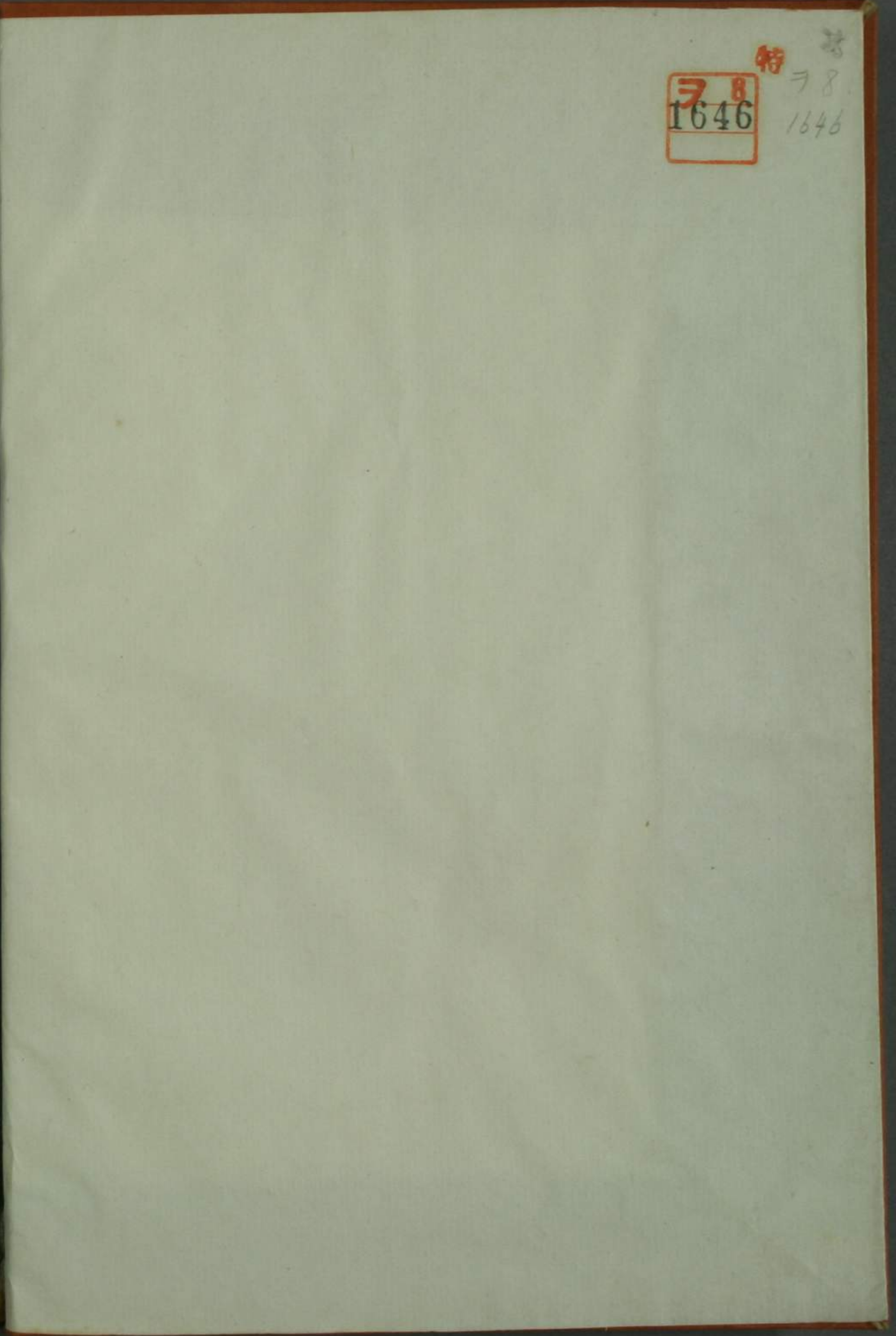
20

1

2



ヲ多8
1646



ヲ多8
1646

ヲ多8
1646

命

印



十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

美園書秘傳目録

こく日

こく日

一 かんじしんごんそめわうのり
 二 せしんごんそめわうのり
 三 同あせしんごんそめわうのり
 四 ひしんごんそめわうのり
 五 られま井乃流りひやうれり
 六 地なうれつひやうのり
 七 まらうれつひやうのり
 八 かろそめわうのり
 九 ちやうろそめわうのり
 十 めんそめわうのり
 十一 ろろちやそめわうのり
 十二 わさそめわうのり

小考
 玉口文庫

ひいらぎをわらうのうら

よろぎをわらうのうら

まぬねをわらうのうら

ぬれさしをわらうのうら

かそでをわらうのうら

らうやのわらうのうら

ふぐをわらうのうら

かんをわらうのうら

たびへをわらうのうら

よろぎをわらうのうら

やぶをわらうのうら

酒乃をわらうのうら

あまをわらうのうら

ひいらぎをわらうのうら

あまをわらうのうら

あまをわらうのうら

ゆねをわらうのうら

つらさをわらうのうら

ころりをわらうのうら

うぐいすをわらうのうら

小麦むぎをわらうのうら

うぐいすをわらうのうら

ふとをわらうのうら

ふろをわらうのうら

あまをわらうのうら

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

くずそらめんのうらへんうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

うらへんうのうのうのうのう

三つかどつて入る一采^{さい}おろひあふせしう二千むたさ
てあくと三本かどつる。三本れあくとつらうくつらう一そ
どおれつらうをちあつてなよとよれどくおれつら
あり富れどくと海のとくとひくつたせれどくおろく
からつらうれどくつらう地をれどくおれつらよあつさいとさ
てよつれ入物おつた。まのちろくつらうどくとなにと入
まれどつらうとよそあつたつらうつらう。つらうつらうあ
よのよくれどくよよとよつらうつらうつらうつらうつらう
かとよつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう
ひよつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう
とつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう
つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう
つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう



地産にのけしひあうのゆ

是か中にてつくひあうつらうつらう。それる井二百目移せうつら
とらつらう。手あつた移せつらう。なつらうつらうつらうつらうつら
ま二つ入る。せうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
うつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
くつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
二三合よ八月とちやえんつらうつらうつらうつらうつら

あつたつらう

八つありわたり内へいづれ子もれ知らずありわたりた
あまのなほいにらるるかけをたをたあひなるあり又すまは
うなるわたりれればあひあひすすさなるいなるあまのよひに
ゆとりあひすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
すすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
すすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす

七

よらよらいおるるけのりゆりかきんのも

よらよらいおるるけのりゆりかきんのも
あがりゆくしてふかきとわたりぬきゆりかきんのも
とこころよゆりてそれうらこころあきゆりかきんのも
又こころいひあひのりゆりかきんのも
ひわけのりゆりかきんのも
とわたりぬきゆりかきんのも

らりゆくもよらよらいおるるけのりゆりかきんのも
とこころよゆりてそれうらこころあきゆりかきんのも
又こころいひあひのりゆりかきんのも
ひわけのりゆりかきんのも
とわたりぬきゆりかきんのも
らりゆくもよらよらいおるるけのりゆりかきんのも
とこころよゆりてそれうらこころあきゆりかきんのも
又こころいひあひのりゆりかきんのも
ひわけのりゆりかきんのも
とわたりぬきゆりかきんのも
らりゆくもよらよらいおるるけのりゆりかきんのも
とこころよゆりてそれうらこころあきゆりかきんのも
又こころいひあひのりゆりかきんのも
ひわけのりゆりかきんのも
とわたりぬきゆりかきんのも

まよふれ申よしひこらりあけぬれそころみろくし
とらふそしこことあてゆびこそあきのころとしいど。一るん乃
のりひさ又らるごとれむろふ枝おまかろ枝しつぎ
けいそのりとおそ。あにてよくまぐ。ちとまじり。物あるは

八

かのそめののり

とらう有月とちこ半め。一あね千目づきしとけつろつ入
せしそつこにちあやうがあられ大さふこに入をむろてん
月よりくがとまゆらでんをわらとちあんそめまじりし
とらうかよわの月あていふとこままのいせねろまら
らうららまよあけいあえとらう

九

ちや又そめ屋うのり

とらうとらう入をいちちやあつかとせしあそそわあつこ
屋うそれ申あつとちかんころとまわらう。くはこまら
おかりよりま合せとておれ一気まぐ。まらあて入
わらそし。さうとらういれま。屋うにそめかしてまを
くろとけけださ。地又あつとらうとんとてまをむり
あり。但そめあつ入。びさ。ごれあり。〇日ちやそめ
事ちふふれとらう。あつとらう。入。地とそめつご。まわ
とちま。うらう。け。ま。ちや。よ。あ。こ。ら。う。い。う。は。ま。う。す。く。一。る。ん
そめ。こ。ふ。ち。や。あ。つ。三。る。ん。そ。め。そ。れ。ら。ま。ま。ら。あ。く。と。う。ろ。ん
ら。れ。い。ち。そ。め。う。下。地。の。そ。め。う。あり。〇。ろ。う。あ。ち。や。そ。め。こ
め。だ。い。か。つ。ち。ま。ど。せ。し。日。つ。ご。ま。れ。わ。く。と。せ。し。そ。め。わ
ま。て。う。と。そ。め。あ。か。う。あ。う。ま。う。な。い。ち。い。ち。と。ち。や。あ。ち。わ。て

ちうあぢあふじあをいさりたてうたげれらるれば
 まじれせしうをそむらあり

十

あがんそめれら
 せんう八十月あ十月合てあのがるはまをうまにあふき
 のあをきあふきあそもきあにそむらあひあふきあ
 ともあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ

十一

くらあやそめれら

ゆあふのすまそとてりあひあふきあふきあふきあふきあふきあ
 てあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 どあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 くらあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 くらあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ

十二

あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ

あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ
 あがふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあふきあ

世にうめをふくむととののこころにこれいんをむく一日をそ
めいろうすく一日をそめぐー

十三 びんろれそめろのつら

いんをそめそめそめそのうめをいんにいそめくより

十四 よろのめをそめおとにろのつら

あわすおそいでよけまろろかま二末にまが二合のくあそそめさ
ほあがのつらまそとまそくろにま入りまそいあそま
又付せうをえめあそまちつらろろ。〇織つらろろあが
のとりをろかつけのいんをいんをいんをいんをいんをいんを
つらまろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
―まそまろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
りまろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

あそいそまろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
同紙よつらろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
入そろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
おそいおそいおそいおそいおそいおそいおそいおそいおそいおそい
まそそめおそいおそいおそいおそいおそいおそいおそいおそい
そろそめそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
どんつらろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
まろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
なり。同たろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
のつらろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろ。〇ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
のろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

な川あつむぎんして入るうー同らそれまゝありたるに居る
一おけれうちをすまんとり出してそれあつむぎんかうとハて
まぬにてはくことこらふちいふものころのじだつらまを
そのうへよへて十日あどとまそそれ好むそとまのくとうひ
だしまつかうとまをそりうじとあかよまにまあて入はま
とまとあり又まそ二年にまのかうとと回合そと入つまあハ
せらまよほ又まそれうへよあつむぎんとこととまそま
へよううちとあつむぎんかうとたまあつむぎんとこととまそま
同らそれまゝ居るくこととまそまあつむぎんとこととまそま
ありうとまそま天候とよれがそれ年中へくこととまあつむぎ
んありまひまどなひくこととまそま不足のころのじ

世 たびへそあかめら居るのころ

そそとよくこととまそま天候よくこととまそま紙あつむぎん
今の一二年とまそまそまをあらうらうらび同あつむ
まのころそま居るくこととまあつむぎんあり

世二 よちうづつむのころ

そそかうれあつむぎん大えまのころとまのころとまそ
ととしておしてあつむぎんこととまあつむぎんそに入日とあつ
まのころとまのころとまのころとまのころとまのころとま
へてあつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎん
又まそまのころとまのころとまのころとまのころとまのころ
あつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎん
うとまのころとまのころとまのころとまのころとまのころとま
あつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎんあつむぎん

あゝぬ扇うにしてさうとあかとおのありううごとくにあふま
つとすあま志がともぎびぬうひぬ扇うにあふしてはくむ
うにおはらあろちあてう人をぬりたるがり――世うかむ
うむけてはげさうがり。大えづけの扇う大え百
むに志が一絲あ合がらじぬ合他者^{たう}をうけハ志がくりハホん
同大えづけ大え百がへ志が一絲あ合他大えけさく志
か一絲 之合へ合がらじぬ合たりしまふとどくには三合へ合
― 一りまあめ合ううまひまうり ね乃志がくりはよ合せ
おけをこに動れあうたるがどくにあうをぬうへ大えんを
かへ又志がくりじとありうまふくにあうはとまた新^かの
くざり―同大えんけあぬ乃田のこぬう一針のりと志が
二針がり三針あはるまこに志あへ入てゆせぬと大えんとか
孫くはつけおとねくありののり大えんつけうとねん
かともせおしほけあくる―とて大えんとあまやうなるが
いかにそねくらうまんとをさかあかとなんふり大えんと
さふくおぶそぬうかようまじか大えんまへのどく―世―
同がうつけ大えんづけの扇う。うとれ志があら又志がたさ
うまをそをれあうまてう大えんとあううをれあうへ入とあこ
らるぬ大えん志あふくともうとつけぬ―うすまをむくい―わ
あておげをさるに―さそぬうへ大えんとあうへさあう
うす志がより又うすまをさしてらんくようつけ田のひぬ
扇うははしとようくつむび―大えんうおげはし大えんあけ
かふ扇うにあふ―あじ 同大えんづけ大えんをさるぬあへ
おけがふして志あふくとなるうすまをさしおげはあへ志

とれありたる程に志不となり又とんとありまうのどく志
かとなりありとありけりままでおへり。又くの田ん
とれこそまにありてそらみとちんげのよたがくこと
まにありとつてよとけけおあり同たえげ
大元百中よこぬり二斗志が二斗よこぬり志不との合たい
えとけけよあふれ入よまこれあふひらげ又たえとあま
へれとんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
うまこつ志おあり同はりはたえつげたえとよりとあひ
てわしひあひせんそんありよとあひのすす一たりよ
あかふよとけけ合あひそんすよとたえと二つん
あふとあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
よつとあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
はつとあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
とれあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
じざり十日やとあふとけけけけけけけけけけけけけ
ても若うううううううううううううううううう
まよあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
さうあふとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
かともおとけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
よとつげとあふとけけけけけけけけけけけけけけけけ
そけあふとあふとけけけけけけけけけけけけけけけ
つげあふとあふとけけけけけけけけけけけけけけけ
孫とあふとあふとけけけけけけけけけけけけけけけ

○まじびねあまのけ　くろまききせうめ　ねく　なごて　飯
かして　大津切（せん）は入ら　か　ま　は　し　ま　す　お　れ　あ　り　の
さらだ　く　ど　か　じ　き　せ　入　ふ　い　て　の　合　津　切　ま　も　一　表　を　さ　て
ま　あ　ご　お　ま　う　の　い　ん　ま　ご　練　つ　い　つ　い　あ　ま　も　つ　あ　り　お　け　る　ご
よ　い　ま　よ　あ　あ　ま　は　は　ら　う　ら　て　さ　だ　ご　ま　か　八　束　入　じ　合　せ　は　か
二　あ　う　に　よ　く　の　合　津　切　ま　も　一　表　を　さ　て　は　ら　う　あ　り　つ　け　て　八　束
ま　ご　い　ち　か　あ　八　束　入　ま　ご　十　日　と　ま　ご　と　あ　か　七　束　も　七　束　入　合　を　入
日　子　す　ス　ト　く　お　く　か　と　あ　か　と　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
お　あ　か　八　束　入　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
そ　こ　二　す　か　と　お　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
か　と　れ　ひ　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り　び　り
あ　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
て　捕（おけ）ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
く　お　れ　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ら　れ　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
又　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
う　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
お　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご
○ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご　ま　ご

ときて竹たけはなはなねねけけれれかかららののああててをを久くくくおおここし
たたここおおといいまま入いれれるるべべしし又またどうどうももななととつつけけししままいい時ときかかららここのの
むむららににつつげげののこころろささににああややととわわににれれるるににああららくくつつけけるる
ああららううゆゆままととここををととれれるる事こと合あははららいいままああららくくととつつげげるる
経けいわわくくななららじじののこころろささににああららくくのの物ものよよううななととよよききこころろににああ
ままりりててええぶぶるる事ことれれみみごごとと二に三さんととななららくくじじししめめががままりりんんなな
いいんんつつけけてておおいいじじ



かかののああののうう

ああららううれれりりややうう此こゝろののこころろれれよよああかかととええぶぶららおおててにに入いれれるるににああららくく
おおととりりのの一いち乗じょうととままいいのの目めををれれああけけととああららひひののけけ目めををああららくく
こころろのの二に三さんととななららくくじじししめめががままりりんんなな
いいんんつつけけてておおいいじじ



ままげげれれるるああののうう

ああままげげれれるるああののうう上うへののああらら米こめ二に株かぶののいいののいいままららここのの
ああららううれれててががじじ一いち本ほんのの谷やああらら一いち本ほんああららくくじじとと入いれれるる事ことああららくくおお
ののこころろににああららううののこころろににああららううののこころろににああららううののこころろににああららうう
ててけけるるああららののこころろににああららううののこころろににああららううののこころろににああららうう
ととりりててああららううののこころろににああららううののこころろににああららううののこころろににああららうう

○白^ちがけはけ^らる^る屋^うへん^とも^よう^酒米^米一本^いん^とも^切つ^き
ゆ^にい^きお^おけ^けに^いお^ま二^三つ^つて^せら^らに^いせ^らる^る
○^いぬ^ぬそ^その^のま^まい^いは^はも^もあ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
○^いぬ^ぬそ^その^のま^まい^いは^はも^もあ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
一本^いん^とも^切つ^き酒^酒の^のま^まい^いは^はも^もあ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
あ^あり^り一^一あ^あか^から^らじ^じ一^一あ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
云^云に^にあ^あり^り入^入お^おこ^こ廿^廿日^日あ^あく^くよ^よう^うく^くま^ませ^せま^まま^ま交^交ハ^ハ三^三七^七日^日に^には^は冬^冬ハ
冬^冬七^七日^日よ^よし^し一^一あ^あび^びや^やう^う常^常た^たく^く心^心よ^よう^うく^くん^んか^かく^くい^いち^ちと^と
入^入ま^まい^いあ^あく^くと^と

【冬】

冬はけらるるのり

冬三^三本^本米^米二^二本^本と^とし^しぬ^ぬ合^合右^右め^めと^と二^二日^日と^とう^うや^やう^うく^くん^んか^かく^くい^いち^ちと^と
ゆ^ゆに^にい^いき^きお^おけ^けに^にい^いお^おま^ま二^二三^三つ^つて^てせ^せら^らに^にい^いせ^せら^らる^る
○^いぬ^ぬそ^その^のま^まい^いは^はも^もあ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
一本^いん^とも^切つ^き酒^酒の^のま^まい^いは^はも^もあ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
あ^あり^り一^一あ^あか^から^らじ^じ一^一あ^あま^まく^くの^のら^らに^にか^かと^とれ^れが^がう^うは^は急^急い^いと^と
云^云に^にあ^あり^り入^入お^おこ^こ廿^廿日^日あ^あく^くよ^よう^うく^くま^ませ^せま^まま^ま交^交ハ^ハ三^三七^七日^日に^には^は冬^冬ハ
冬^冬七^七日^日よ^よし^し一^一あ^あび^びや^やう^う常^常た^たく^く心^心よ^よう^うく^くん^んか^かく^くい^いち^ちと^と
入^入ま^まい^いあ^あく^くと^と

一 あいそがらんをねがはしめてうりてまはしむ七日めくはじま
 わり目とあて又はせゆひ日教三七日とましては又はしむ
 よまるべー回ちまをねがはしむ未年合をこまよへくま
 あまを合わじまあひせしむあてよりゆききてたひよまを
 まとくねら未あじあを合せ揃へまかきあてしは減つて
 七日くよかきゆ辛未目め又四へ合へー同八月まはし
 へ合へ。未を合にしぬ三申未あじ三未合わらじとあま
 ちりくひの合揃へ入二三とまひよき合のあつてしつゝま
 のうへよまはしねねと蛸貝二ツ尖のおさ二ツ尖と折かけはく
 めことして色ひあまをうふして三七日まて四よまをう未を
 ねけらてまて回理ふもまてふよあてまつてう回ら
 とればらりやうあまうぶ地とあまは月あまのあまを
 の白んと別一休二休又合わしと入らまて三申をねがはしむ
 申すてのちれおまもまことたに三十日行きてはくふはちあま
 ひよ二休まてまらまらまあてまて二休と水と入つてまて
 とまねとわらひしてつうあまり回白飯のたつるあま黒天
 二本合またきままにあてうらう回まあ三休あじ一合合ま
 合ことをあつてまににてま月めあまのくま日乃回ま二
 き合又よりまあてて七七日めよりまはつてまあまあ
 くりまてまへんてあまのくまあま合へー又うまてあ
 未又合合またきまらまにあてまのくまあまのくま
 同八月まはしぬあまのくまあまのくま未二本あてしあ合ま
 りまあ合まを合を入掃はまあてまのくまのくま入合ぬあ
 まてまあてつうまはし二敷りああまのくま入合おとまに

の白んと別一休二休又合わしと入らまて三申をねがはしむ
 申すてのちれおまもまことたに三十日行きてはくふはちあま
 ひよ二休まてまらまらまあてまて二休と水と入つてまて
 とまねとわらひしてつうあまり回白飯のたつるあま黒天
 二本合またきままにあてうらう回まあ三休あじ一合合ま
 合ことをあつてまににてま月めあまのくま日乃回ま二
 き合又よりまあてて七七日めよりまはつてまあまあ
 くりまてまへんてあまのくまあま合へー又うまてあ
 未又合合またきまらまにあてまのくまあまのくま
 同八月まはしぬあまのくまあまのくま未二本あてしあ合ま
 りまあ合まを合を入掃はまあてまのくまのくま入合ぬあ
 まてまあてつうまはし二敷りああまのくま入合おとまに

とうじつ 同融のかりりわくぬらふ二斗此らにきくれと
とふやど入七日かときけよくなる 同たが此融酒一斗す一斗
水末つがよ入とくこ世乃四よまにぬん融とくさつと共
そあまそそ酒あふん合あしてつ又世くのごくまれ六碗の
たあつゆあまん融よまといふ世よまらまあり

廿六

あうゆれけりるるの
大豆二斗なまよりほして引よりほとまをー小麦一斗がま
りふして二つよりほして大豆二斗なまよりあしてこまうに
引よりほとまを二斗一斗は三斗と入はほこちをにくるこ同
ちうゆじふ二斗大豆二斗あか一斗あ一斗あ米右れちや
うゆのどくけくろぐー 同た入とれちやうゆ大豆二斗
りくつまてひりてひささるるありあか米にあり一斗米
入せんで一飯さほは右乃くじごうま合又あよりかりしめ米あうを
一日物あ半目かじてほ白米二斗あ合あ一斗三斗入あま
めく右乃ちやうゆよ入ふ六目まそこのらにとくこ世乃か
てあうかり同二飯あやうゆれけりるやうかりし三斗か
三斗あ合白米一斗にあり一斗入うゆあして入まそこのらよ
あうかりうゆあか米とらう 同あやうゆの
あうたるよ入ましくとせんでつあまかあうのらにひりて
まはし同あやうゆくくあつらうのら大豆二斗
よあして大豆二斗よくまつさひさうらむらようを融せ
て塩二斗常れとくせに合ああ四人のありくあ又あ
く常にうまませ過又たの向にそくをさうのとと
こまそあ半目うあ半目めう上白米あ合塩あ合あ一斗は三斗

こまそあ半目うあ半目めう上白米あ合塩あ合あ一斗は三斗

どうのねぐりゆふあぐよくしはしひきつう時をに今を合て
十又百九粒とせしきねばとせとくもさるるどせりして七十
有半はし目ふかめてひのたまり此にらへるうもえはよ
たうあつた大豆粒ちう一斗あつらがりゆき東塔三斗入色塔三斗
よみせ平かど入せしてうじはぬりうくねうもあて引て入色
又そのあつらうりかまきくは大豆よくゆへん時をちれあを大豆
よてうりくことにはそそまるとまのどく入あよあせお

廿七

ひか乃あいらるるのりや 丸山

小麦斗よつとそそ大豆四斗よりてありくと引よりてはと
吹に二斗でのら米三斗よつとそそ日め小麦と合と
と洗一斗ひやてこあかどむいもあれこところもにら
けねさせとらみとけり日よあはあつ右むととむい

あなまやうにむいねむいりあなまきばなれてはあもあ
地そとそくゆくをれあいらるるそそと引かそくあどあ入
中塔三斗あ塩合せんさほしておあじと入さ合一日
よ三交うきあつせとじめ八月あてぬ八日よ入日加うあ
びかあいらるる小麦斗よつと三交つとそそに
り米三斗あ合よくとりて二斗て小麦ところをに
ねさせかりはしてあ米入常粒と目あてにおさ一日よ
三三ころこのあませじだし二合又ターかあり日ひか
小麦斗よりて二ツより大豆三合よりて二ツはよりかり
二斗ととととりて花ととり又色くひか合さつかさ
まはして七日めよははははあやうゆ定粒たにいつあてとこ
いらてた

大

まのりとうのおーらなうのの

大臣を申すまのりとうにまてこまもはたけくちうよかしてか
じらちまこまのにしておれまのれうもようをばし志が三味名
本志が平かば三味これうかまをまのいてらうをれらか
して入道がと十をえめとまて十日やどまをまてさうか
て又おひようくくと入ちあり 日とあるなうとうのじらな
う。大臣三才大むじこ二才あがの味まめとらとまのりどよあて
むじまよまじしつうてこあて大臣のあつこ肉よまませしてむじまを
ひて二和とまの次の目らうむじしてうじに練させてのらまあ入
あひひこくよ入て七月あうてかううこまをせうまそののうこ
も三日やどおとけしてがひらう物一日よりして又おひとけ
らうのうらまとうけがひまをへー又あうこまをとり入道に大臣
とまをせかひまこまをらうのまわう

夜

あめれゆりのやうのの

もあめれゆりなうのらま一末つひれりやどまたまじ
三合あまみ合右の三合合せ夜ハ一とまこやあひまを
はまののがちうまをけてまをたりしそまのうまよ入央んが
そくたさまろくとゆりつむろく白まうまてゆれがあめれを
りてて見このあり。又のらハ少くりまあわりのうてもゆれどお
まハ女あまろ外うり。又おれたまをすま加りしとまにまおまよ
まのままけに成へー日あめれゆりなうむじまのやーてま
かてこまはまじ又のらまとまうつまをめいたまていまはま
ぬゆうにがひまとまひまをまはしてまにひらくまむまは
まーはこまをままらまこと三合あまをせてあままひま

戸をくろのきふいんぼのあやこふふいしげはひたうふふしとて
あそくちんあり

木四 小麦こむぎたこひきなうのし

小じまやあつて女あふとてうさむらひひきあふふふふふふ
木六 うぶのあかきまのし

六月のあつたつとまひきふいよ粉こな三まじはじし
とまひふいんぬの四よ粉こなふふふふふ

木六 ふととらやうのし

粉こなき身にあふ三合入さんごういりうまあふふふふふふふふ
とまあふふふふふふふふふふふ

木七 ぶろなまきれりなうのし

あつふふあましのあまふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ういふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

木八 あまふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

のらあふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
てころきーものごとあり

木九 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
てふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
つふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

をそおれんてふてふ湯とほろくりりそくさんのおまよ
つ湯汁にほどくれをうめよきなりあり湯おつてい
まありあらはしよそ

四

かうつらりれり入るうのり
のら来上白と種と入粉りききかえつごまきんよめつ湯よ
て粉とめらよこ種ゆせんとてよこちえんちあけりまを
つば右れ湯よそよこちりよあろつごのぶちよまをこ
のりよちりー余わらあさりてまねうよあぶひがにば
かじよくしてあぶあり二種おひびごれとわいあり 回
のらちりまきつひごくあはのらにつごあよこまんよき
合つごひ種まらりとたうよれ何よは来の粉と二合に
ひんをそめらあふんここれ肉のつてまのめく二合と
とろあそあさいとよそあまはあま時あまらひへ

五

かうつらりせへいり入るうのり
小麦粉がきそそ二つゆり来のこまにちり合さよ
くここねてせんをいふまよあつと女めろそぬくを
よこ種ら粉とてよこれ決よそぬあり

六

ゆいりれり入るうのり
上白ゆり来とこし来と二支れこつはろくまあり
よ合まひれれそことねし中よめめいよまの粉と
よきたらふよおひよめらこつこまはしあつて

七

まにかうのり入るうのり
ふじゆりらふじゆりらふじゆりらふじゆりらふじゆり
合て粉とゆりあめらうにこ種とごまをそつご合めを

よそめは登りつゝはひらきしほしてたえあやをゆづりけりてありと流
らりまゝにゆひてあの本はとてくせしてそれちりりてくまにひ
ひまゝとせしめり

四六

うらひかきしほりうらひりくぬののゆ
ゆらまれば二合りし本は移し合あせけりうらひりくぬののゆ
まればとてじとてうらひりてまのいけりうらひりくぬののゆ
あこめりりよしこい合

四七

かじとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ
まてとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ

四八

あしとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ

四九

あしとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ

五〇

あしとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ

五一

あしとてうらひかきしほりうらひりくぬののゆ
さめりうらひかきしほりうらひりくぬののゆ
十のんごう又ふりてして六時おさうらひりくぬののゆ
よさうありりくぬののゆ
たよさうありりくぬののゆ

○おぼくとスーくちやう。こぬる業志かひ余も入ゆく。とくを念
えしゆふといひにびくろりまそでの^{世世}のたもとくまをてかづは
らうのびー。○ろりてスーくちやう。ままはあえまことこま
しそらにくまもせつかに入ちあり。○又ちやつがれんとるり
わごめかひげとつがれといふちふせにあせをれんくろり
とつがれまゝ入よにはまらちあり。同ろりと比しくおぐ登う
られめと登まてがらとておひとこめつらそのうよりよく
まるとあゝそのうより又ちちとあつあふなごまをんくは^て
うへまもあつあうらんとてぢく。とろりぢして又たなまもけ
おごあり。○ありのまじかぢる登うたひれんつこおま
とつこびくはらあてつこ。系の目のたういおとあり。ま
まておしとぶといひい合せぬ登うにのいとくそあちあり
○ゆまはあまらけりともま登う。ゆま首よりま二斗あか三珠
今くふつてしてまもそよくまろつづをれあてまろゆまを
百つけてつがれ入てはとよくとらちあり。あつこゆるまそ
あべー八月のちりり。○うかき久あおまらうよまといれ
うて掃^{はら}とつこまらる。

五四 草木うゑるうのゆ

大えな株まをわう。三首あのおがよあげ。二月おてまづく^甲油
こまをひまういふまをこくづ。○まのひれまうい登うまのい
株とあつこゆま入そのち湯れうむまをとおふ。天目よおして
まげびりこまをひだうふまをこづ。○まをひるゑを登う三
月のちあふまは正月ろ中にあせつらうくそまをころよく
から地あり。同まといひもまにうかまをひだ株と正月よ



